

## 運輸車輛部会 視察研修会 報告書

- 開催日 平成 30 年 10 月 10 日（水）
- 視察先 THE OUTLETS HIROSHIMA、マツダ株式会社 本社・宇品工場
- 目的 THE OUTLETS HIROSHIMA では、地域との出会いの場としてどの様に機能しているかを確認、マツダ株式会社では、マツダのものづくりにおける取り組みや現場の安全性向上、地域との関わりについて学ぶ。
- 参加者 11 名（事務局 1 名を除く）
- 主催 三原商工会議所 運輸車輛部会

本所運輸車輛部会（田中綜一部会長）では、10月10日（水）、業者間（部会員間）親睦並びに先進地視察のため、視察研修会を実施しました。

当部会では、運輸業界の発展に寄与し、道路交通事情について調査研究することを目的としており、「地域創生型商業施設」をコンセプトにオープンした THE OUTLETS HIROSHIMA、三原郷心会様にご尽力いただきマツダ株式会社を訪問しました。

### THE OUTLETS HIROSHIMA

「本格アウトレット」を核に、「エンターテインメント」そして「地域との出会い」をテーマにフロア展開がなされ、物販ゾーン「よりみちマルシェ」では、地域との出会いの場を積極的に創出されていました。

物流では、巨大商業施設にも関わらずトラックの物品搬入口が小さく、物流の効率化がうかがえた。しかし、検証するまでに至らなかったのが反省点です。

<参加者からの感想>

「商業施設を地方創生につなげる仕組み作りの重要性を学ばせていただきました。」「集客、賑いの創出、立地、規模、ブランド、物流、ゴミ問題等々、三原に置き換えると何が出来るのか思い巡らせました。三原の場合は巨大資本が大規模開発で集客施設を造るよりも、自然や歴史など特性を活かした地道な取り組みが必要なのかなと思います。自分達が出来ることをコツコツ積み上げていきたいと思いました。」とのお声をいただきました。



## マツダ株式会社 本社・宇品工場

マツダ株式会社では、郷心会様のご案内で、まず本社にてマツダ株式会社のものづくりに対する考えや姿勢についてお話いただき、全社一丸となって商品開発に取り組みマツダの強みを生かした



取り組みが現在の躍進に繋がっていることが分かりました。

次に普段見学することの出来ないプレス工場、エンジン組立工場を特別に見学させていただきました。生産現場では、ロット生産をやめ、受注生産を行うことでお客様の要望に応えるとともに無駄な在庫を極限まで減らしていらっしゃいました。それには従業員の様々なアイデアや、それを形に出来る組織体制があることを感じました。

### <参加者からの感想>

「スケールに圧倒された。まち全体、地区全体が巨大な「マツダ村」として一体感があり、地域のシンボル、広島の誇りであることがよく分かった。」

「社員の方もマツダに誇りを持ち、期待に応えようという気概が感じられた。」「マツダ様のものづくりの真髓を十分学ばせていただきました。」などのお声をいただきました。



## 研修のまとめ

前年度の視察では、株式会社イズミ広島物流センターとLECTでは最新の物流を学び、広島港国際コンテナターミナル（出島地区）では、広島経済におけるマツダ株式会社の影響の大きさを目の当たりにしました。

今年度は、マツダ株式会社を視察させていただき、マツダ株式会社の創業者広島に対する思いや「ものづくり革新」の取り組みについてお話を伺い、弱みを強みに変えることができる組織力、誇りを持ち仕事ができる環境づくりの大切さを学び、改めて大きな広島のリーディングカンパニーについて知ることができました。

THE OUTLETS HIROSHIMA では、商業施設においても「地域創生」が大きな柱となり、地域とともに成長することができ、地域の皆さんに愛され、地域のことを発信できる施設が求められていると感じました。